

JA全農ちば 営農情報集

2022 11

今月の情報

1. 園芸野菜 病害虫防除情報
2. ナシ ハダニ防除について
～環境に負荷を与えない取り組み(IPM情報)～
3. 安全な農作物生産の取り組みについて
～農薬散布時の服装～

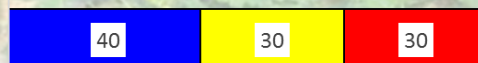
11月の気象について（気象庁 11/3 発表 長期予報（1か月）から）

1. 11月は気温、降水、日照いずれも平年並みとなる予報です。引き続き、施設の温度・湿度管理には注意しましょう。

【気温】



【降水量】



2. 台風の接近にも引き続き警戒し、施設等の保護対策も行いましょう。

【日照時間】



凡例 ■: 低い ■: 平年並 ■: 高い



全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています

アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照ください

HP : <https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx>または「アピネス」で検索🔍

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

気温が下がり、保温のために夜間、施設では閉め切る時期になりました。すでに最低気温が10℃を下回り始めている地域もありますので、温度管理には十分注意しましょう。また、降雨が多くなってくると病害の発生リスクが高まります。引き続き、早めの防除を徹底しましょう。

2. 果菜類 — 灰色かび病

薬剤防除の前に耕種的防除を実施！

(1) 除湿

灰色かび病は20℃前後の気温と多湿を好みます。夜間、ハウスを閉め切る時期は湿度が高くなりがちです。除湿のための天窓換気、暖房機による早朝加温、空運転等を実施しましょう。また、薬剤散布はなるべく午前中に行い、ハウスを閉め切るまでに薬液が乾くようにしましょう。

(2) 施設圃場の管理

灰色かび病は、咲き終わった花卉や枯れた葉等に寄生してから健全な部位へと移っていきます。果実に付着した花卉や枯れた葉が残っていると、灰色かび病の発生源となります。同様に、発病した葉や果実を通路に放置せず、必ずハウスの外へ持ち出して処分しましょう。



発生源となる咲き終わった花卉

茎に発生すると被害が大きくなる

残さを通路に放置しない

(3) 薬剤防除

● トマト 灰色かび病 防除薬剤

FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000～4000	収穫前日まで	3回以内	予防
7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
9	フルピカフロアブル	2000～3000		4回以内	予防
12	セイビアーフロアブル 20	1000～1500		3回以内	予防
1+10	ゲッター水和剤	1000～1500		5回以内	予防・治療

● キュウリ 灰色かび病 防除薬剤

FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000	収穫前日まで	7回以内	予防
7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
9	フルピカフロアブル	2000～3000		4回以内	予防
12	セイビアーフロアブル 20	1000～1500		3回以内	予防
2+10	スミブレンド水和剤	1500～2000		5回以内	予防・治療

3. キュウリ ― コナジラミ類・アザミウマ類

ウイルス病の蔓延に注意！

(1) コナジラミ類

県内で発生するコナジラミはタバココナジラミとオンシツコナジラミです。特に、タバココナジラミはウリ類の退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）を媒介します。

(2) アザミウマ類

県内で発生するアザミウマはミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマの3種です。特に、ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介します。

(3) 耕種的・物理的防除

薬剤防除を行う前に発生源となる周辺雑草の除草、施設への防虫ネット(0.4mmが好ましい)の設置が重要な対策になります。また、コナジラミ類は黄色、アザミウマ類は青色の粘着板によって発生予察を行いましょう。

(4) 薬剤防除

●キュウリ コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤

対象害虫 ※1	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 ※2	使用時期	使用回数
コ	9B	コルト顆粒水和剤	4000	収穫前日 まで	3回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	1000		2回以内
コ・ミナミ	4A	ベストガード水溶剤	1000		3回以内
コ・ア	6	アフーム乳剤	2000		2回以内
		アグリメック	500		2回以内
	28	ベネビア OD	2000		3回以内
	30	グレーシア乳剤	2000		2回以内
ア	UN	プレオフロアブル	1000		2回以内
ミナミ	15	カスケード乳剤	2000		4回以内

※1 コ：コナジラミ類、ア：アザミウマ類、ミナミ：ミナミキイロアザミウマ

※2 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000 倍登録→1000）

4. キャベツ ― ベと病

降雨前後は要注意！

(1) ベと病

はじめ下葉に黄色いぼんやりした病斑があらわれ、しだいに拡大して、葉脈で区切られた多角形になります。病斑の裏側には白色のカビが霜のように発生します。比較的気温が低く降雨が続いた場合、感染が急拡大することがあるため、長い降雨後はすぐに防除を行いましょう。

(2) 薬剤防除

●キャベツ ベと病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ベと病	21	ランマンフロアブル	2000	収穫 3 日前まで	4 回以内	予防
	40	レーバスフロアブル	2000	収穫 7 日前まで	3 回以内	予防・治療
	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫 14 日前まで	2 回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールド MZ	1000	収穫 30 日前まで	3 回以内	予防・治療

5. ネギ — さび病・べと病

予防的な薬剤散布を実施！

病害は多湿条件を好むため、降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ剤を使用しましょう。また、夜間にもや・霧が発生する日は病害多発の恐れが高いです。天候に留意しながら防除を行いましょう。

(1) さび病

オレンジ色の隆起した斑点が生じます。20℃前後での発生が多くなり、一度発生してからでは防除が困難な病害です。予防主体の防除を行い、病斑が見られたら直ちに治療剤の散布に切り替えましょう。

さび病の病斑▷



(2) べと病

葉身が黄色くぼやけ、表面にはやがて灰暗色のカビが発生します。さらに進展すると、被害部から葉が折れてしまいます。感染から発病までは非常に速い病害です。降雨前には予防剤を散布し、降雨後も多湿圃場では被害の急拡大に注意しましょう。

べと病の初期病斑▷



(3) 薬剤防除

●ネギ さび病・べと病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
さび病	7	アフェットフロアブル	2000	収穫前日まで	2回以内	予防
	3	オンリーワンフロアブル	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
さび病・べと病	M3	ペンコゼブフロアブル※	500~600	収穫14日前まで	3回以内	予防
	11	メジャーフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防・治療
	21	ランマンフロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防
べと病	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールドMZ※	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療

※ペンコゼブフロアブルとリドミルゴールドMZは同成分（マンゼブ）を含むため、合わせて3回までなので総使用回数に注意

環境に負荷を与えない取り組み

第2弾

～ナシ園でIPMに取り組みませんか！？～

J A全農ちば 営農支援部

IPM（総合的病害虫管理）技術の導入により、土着天敵に対する影響の軽減、化学合成農薬の削減、薬剤抵抗性発達を遅らせるなど、環境に対する影響が少なく、かつ安定した農業生産が期待されています。ナシ園における「IPM 版害虫（ハダニ対策）防除暦」の殺虫剤の散布モデルを紹介しますので、来季のハダニ防除にご活用ください！

環境に負荷を与えない取り組み

天敵にやさしい薬剤を使う(6月～7月)
* 散布モデルを参照してください

天敵に影響の大きい
薬剤の散布を控える！
例：有機リン剤、合比剤など

6月～7月

天敵に優しい
薬剤へ切り替える！
例：カイガラムシ用、カメムシ

下草管理
通路：くまび程度に除草
株元：除草しない

強い薬剤使用で土着天敵が減少すると、ハダニが繁殖し樹上へも移動する

下草により土着天敵に住みよい環境になる
⇒土着天敵が増える
樹上に移動しハダニを捕食・防除する

こんな方に！
おすすめ！

* 環境に負荷を与えないで害虫の防除ができるのであれば、取り組んでみたい。
* 農薬の散布は出来るだけ少なくしたい。
* 収穫中は農薬散布を控えたい * 周辺の宅地化で薬剤散布は飛散が気になる。

重要ポイント！

IPM 版害虫防除暦の前提技術

- ① 物理的防除
 - (ア) 多目的防災網の展開
 - (イ) 大型害虫の侵入を防ぐ
- ② 化学的防除
 - (ア) 非選択性殺虫剤の使用を控える（6～7月）
 - 梅雨明けに天敵を温存する効果がある
- ③ 耕種的防除
 - (ア) 全面 or 株元草生
 - 天敵の隠れ家や樹上への梯子となる
- ④ 生物的防除
 - (ア) 土着カブリダニが発生しハダニ類の多発が抑制される

➢ 6月～7月

- 非選択性殺虫剤の使用を控える
- 天敵が増える環境になる

➢ 梅雨明け後

- ダニ剤を散布する
 - 梅雨明け後 10 日～20 日頃のハダニ急増の前に防除する

天敵(カブリダニ類)に配慮した殺虫剤の散布モデル			
時期	薬剤名 ※必須防除	薬剤名 ※臨機防除	主な対象害虫、()は臨機
3月	マシン油乳剤(50倍)	アブロードフロアブル	ハダニ、ニセナシサビダニ、カイガラムシ類 (ナシマル)
	ウララDF	ダイアジノン水和剤 34	アブラムシ (ハマキムシ)
	バリアード顆粒水和剤		アブラムシ
4月	モベントフロアブル	ハチハチフロアブル	ニセナシサビダニ (チャノキイロ)
5月	サイアノックス水和剤		アブラムシ、シンクイ、ハマキ
	コンフューザー-N		シンクイ、ハマキ
	コテツフロアブル		ニセナシサビダニ、チャノキイロ
	モスピラン顆粒水溶剤	ダントツ水溶剤	アブラムシ、シンクイ、クワコナカイガラ
6月	トランスフォームフロアブル		クワコナカイガラ
6月	ジアミド剤 BT剤		ハマキ、シンクイ
7月		スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	(カメムシ)
梅雨明け	カネマイトフロアブル等 ハダニ剤		ハダニ
8月		ベストガード水溶剤	(カメムシ)
	ロディー水和剤		ハマキ、シンクイ、カメムシ

参考資料：千葉県安全農業推進課作成の「ニホンナシのハダニ類の防除における IPM 技術について」および「ニホンナシにおける天敵カブリダニ類を主体としたハダニ類のIPM防除マニュアル」

安全な農作物生産の取り組みについて ～農薬散布時の服装～

J A全農ちば
営農支援部

1. 農薬事故について

全国では毎年数十件、農薬の使用に伴う事故が発生しています。農林水産省の調べによると、平成28～令和2年度の5年間ににおける農薬事故98件中20件(20.4%)が『**マスク、メガネ、服装等の装備が不十分**』に起因した事故でした。農薬のラベルにも薬剤ごとに注意事項が記載されています。事故を防ぐためにも、記載内容に従って適切な保護具を着用しましょう。

2. マスクについて 薬剤・用途に応じ選択

農薬を散布する際、散布液の粒子が飛散し、皮膚、鼻、口等から体内に入り込む可能性があります。マスクは数種類あります。農薬の剤型などに従い、適切なマスクを着用しましょう。

- (1) 農薬用マスク・・・国家検定合格の使い捨て式防塵マスク。農薬の粉剤および液剤を散布するときに着用します。農薬用マスクは原則使い捨てです。
- (2) 防護マスク・・・国家検定合格のフィルタ取替式防塵マスク。急性毒性の高い農薬（粉剤、液剤）を散布するときに着用します。
- (3) 吸収缶付防護マスク（土壌くん蒸剤用）
・・・国家検定合格の有機ガス用の吸収缶のついた防護マスク。クロルピクリン、D-Dなどのガス化（気化）しやすい農薬の使用時に着用します。吸収缶にも種類がありますので、間違いのないようセットしましょう。

3. 服装について 肌を露出しない、目・鼻・口を守る

農薬使用時は、防除衣や防止、マスク、メガネ、手袋、長靴などの保護具を着用しましょう。

